

CODE 海外災害援助市民センター
2005 年度事業報告
2005. 4. 1～2006. 3. 31

CODE 海外災害援助市民センター
2006. 6. 17 総会資料

◆事業報告一覧

事業	事業名	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び予定人数	支出額(千円)
海外災害地への救援活動事業	救援プロジェクト	随 時	アフガニスタン	対象地域住民	2038
		随 時	アルジェリア	対象地域児童	0
		随 時	イラン・バム	対象地域住民	1963
		随 時	スリランカ・インド・タイ	対象地域住民	12594
		随 時	イラン・ザラド	対象地域住民	101
		随 時	アメリカ南部	対象地域住民	429
		随 時	中南米	対象地域住民	12
		随 時	パキスタン	対象地域住民	2267
		被災地支援のためのクラフト事業	随 時	全 国	全国各地
人材育成事業	NGO ことはじめ	7回	JICA 兵庫	延べ 302 名	64
	HAT 神戸内 国際機関訪問ツアー	1回(2日間で実施)	神戸市内	延べ 25 名	0
災害関連情報の収集及び発信事業	災害情報サイト(CODE World Voice)の運営	随 時	全 国	不特定多数 翻訳ボランティア 20名	26
国内外のネットワーク構築事業	関係機関の開催するセミナー、シンポジウムへ出席	随 時	全 国	—	77
	留学生セミナー	6日間	神戸市内	留学生6人	176
	「ほっとけない世界のま ずしさ」キャンペーンへの参加	2004年6月～ 2005年3月	神戸市内	不特定多数	255
「市民による災害救援」に関する調査・研究事業	協同組合の勉強会	実施せず	—	—	0
	予防防災の取り組み	3回	人と防災未来センター	延べ 81 名	90
「市民による災害救援」に関する啓発及び広報活動事業	賛助会員数の増加	随 時	全 国	不特定多数	0
	ボランティアの日	10回	CODE 事務所	延べ 80 名	68
	講師派遣	随 時	全 国	不特定多数	768
	機関誌とインターネット	機関誌は隔月発行、インターネットは随時	事務所	機関紙 700名/団体	661
	救援プロジェクト報告会	随 時	全 国	不特定多数	8
	冊子等の発行	随 時	事務所	不特定多数	
その他本会の目的達成の為に必要な事業	スタッフのスキルアップ	随 時	インド・インドネシア等	事務局スタッフ	29
	1.17 シンポジウム	2006年1月17日	JICA 兵庫	約 90 名	164

【海外災害（地）への救援活動事業】

事業名	アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	随時（2002年7月17日からの継続事業）
実施場所	アフガニスタン カブール州ミール・バチャ・コット地域
受益対象者の範囲及び人数	ミール・バチャ・コット地域のぶどう農家 412 世帯 女子学校の生徒 1400 人
実施内容	<p>2002年7月に立ち上げられたアフガニスタンぶどう畑再生プロジェクトは、3年が経過した。2005年度は5月に現地を訪れたが、収穫時期の9月には治安の不安定により現地を訪れることができなかった。しかし、3月から次年度の4月にかけての春の準備時期に現地を訪れて、芽吹いたぶどうの葉を見ることができた。</p> <p>1年目のぶどう基金の貸し付け家族は288世帯。2年目に112世帯が借りた基金の一部を返金し、そのお金で新たに112世帯に貸し付けた。3年目は12世帯が返金し、新たに12世帯に貸し付けたので、3年間で合計412世帯のぶどう家族がぶどう基金をもとにぶどう畑を再生している。ぶどう畑再生支援の他に、ぶどうの生育に必要な水を得るためのカレーズ（地下水脈）清掃や村の女子学校の支援も行った。</p> <p>日本国内でのぶどう畑再生プロジェクト会員獲得については、プロジェクトに賛同し、会員になる方々の数が年々増えてきており、日本国内においての報告活動が認められつつある。昨年度の会員数は656人（3年会員と昨年度の申し込んだ1年会員の合計）。</p>
海外派遣	2005年4月28日～5月9日 第9次アフガニスタン調査（村井・斉藤） 2006年3月30日～4月6日 第10次アフガニスタン調査（村井・飯塚）

事業名	アルジェリア地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2003年5月23日からの継続事業）
実施場所	アルジェリア
受益対象者の範囲及び人数	対象地域住民
実施内容	引き続きクワテモック（メキシコクワテルロコ住民連絡会議・CODE 海外研究員）を通じて情報収集し、検討してきたが、政情不安定の影響もあり、適当なカウンターパートを見つけるに至っていない。来年度も引き続き情報収集を継続する。

事業名	イラン南東部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2003年12月26日からの継続事業）
実施場所	イラン・バム
受益対象者の範囲及び人数	対象地域に住んでいる約100人の子どもと大人
実施内容	<p>2003年12月26日に発生した地震の被災地、イラン南東部バムへの支援を開始して2年が経過した。2005年度の活動としては、パートナー団体である現地NGO、AHKK（働く子どもを守る会）と連携して、被災地バムでAHKKセンターを運営している。</p> <p>AHKKセンターでは、音楽教室、裁縫教室、織物教室、人形劇の教室が開かれている。音楽教室においては、サイド先生による子どものための音楽教室（週3回）と音楽教師のための養成教室（週1回）を開かれており、12月にテヘランで500人以上の観客を前に子どもたちのコンサートが行われた。</p> <p>子どものための音楽教室では、養成教室に通っている生徒が実習でサイド先生に代わり、12月から週1回担当している。センター内にある体育館はCODEの支援で完成し、子どもたちの音楽コンサートや演劇などのために使用されている。</p> <p>秋に開始したデーツプロジェクトは、地場産業であるバムのデーツ（なつめやし）産業が不景気なので、今年度は売上げにつながらなかった。現在はデーツを保存しており、時期をみて販売する予定である。</p>
海外派遣	6月3日～15日 第5次イラン南東部バム地震支援調査（斉藤） 8月5日～11日 第6次イラン南東部バム地震支援調査（斉藤） 8月23日～31日 第7次イラン南東部バム地震支援調査（斉藤・飯塚）

事業名	スマトラ沖地震津波プロジェクト
実施日時	随時（2004年12月26日からの継続事業）
実施場所	スリランカ・タイ・インド
受益対象者の範囲及び人数	スリランカ 防災教育支援：延べ約260名 （1月～3月に4つの村で13回プログラムを実施、1回約20名） 幼稚園・保育園再建支援：約200名（予定） （5つの地域で幼稚園を建設） 漁業組合支援：約300名（2つの地域で実施） タイ 対象地域住民 インド 対象地域住民
実施内容	2004年12月26日にスマトラ沖で発生した地震とそれに伴う津波の被災地への支援を開始して1年が経過した。CODEは主にスリランカで、防災教育支援、幼稚園・保育園再建支援・漁業組合の支援を行っている。 防災教育は、CODEとYMCAの防災教育に携わる国連ボランティア2名をスリランカ南部に1月に派遣。防災ソング「おはしも」の普及、ハザードマップ作り、津波民話「稲むらの火」の読み聞かせ、お絵かきなど子どもの主体性を生かした支援を展開。 幼稚園・保育園再建支援では、スリランカ全土の被災地5箇所支援を行っている。1月にマータラの園舎が完成し子どもたちが学校に通い始め、他4軒も年内に完成する予定である。 漁業組合支援はスリランカ南部と北東部で展開している。この支援では、漁業組合を設立し、組合単位で漁具などの提供を行った。大統領選挙前後の～月から治安が悪化し、北東部の支援は中断している。 タイではSVAと連携して、絵本「稲むらの火」を現地語で出版、SVAが運営している図書館などで読まれている。 インドでは、2001年のグジャラート地震時のカウンターパートであるSEEDSのアンダマン諸島での活動を支援した。
海外派遣	4月6日～18日 第3次スマトラ沖地震津波調査/スリランカ（村井・飯塚） 4月21日～27日 第4次スマトラ沖地震津波調査/インド（村井・斉藤） 6月19日～7月1日 JICAスリランカ緊急開発調査（飯塚） 7月5日～15日 第5次スマトラ沖地震津波調査/スリランカ（野崎・飯塚） 7月22日～29日 JICAモルディブ緊急開発調査（濱田） 8月1日～4日 ADRRNインド国際会議（斉藤） 8月22日～29日 ISVCインドネシア・ニアス島派遣（村井・濱田） 9月22日～26日 JVC津波アジアNGO国際会議/タイ（村井・飯塚） 12月2日～2006年1月4日 JICAスリランカ派遣（村井・濱田・飯塚） 2006年1月20日～継続 UNVとして、スリランカ派遣（濱田）

事業名	イラン・ザランド地震プロジェクト
実施日時	随時（2005年2月22日からの継続事業）
実施場所	イラン・ザランドとバム
受益対象者の範囲及び人数	ザランドとバムの被災女性と子どもたち約100名
実施要領	2005年2月22日に発生したイラン・ザランド地震の支援において、バムの地震支援のカウンターパートである AHKK を通して支援を行い、プロジェクトを終了した。AHKK とザラントで活動している NGO が、ザラントとバムの交流事業を開催。被災した2つの地域の女性や子どもたちが、それぞれの被災地を訪れ、地震災害やそれぞれが抱えている問題などを共有した。

事業名	アメリカ南部ハリケーン・カトリーナ救援プロジェクト
実施日時	随時（2005年9月11日からの継続事業）
実施場所	アメリカ
受益対象者の範囲及び人数	対象地域住民
実施内容	2005年9月11日にアメリカ南部で発生したハリケーン・カトリーナの支援において、災害直後救援活動を開始した日本災害ボランティアネットワーク（NVNAD）をとおして、被災地を支援した。その後、アメリカの子ども支援の団体である Christian Children's Fund（CCF）を支援した。 尚、この支援にはホワイトバンドの売上金の一部が含まれている。

事業名	パキスタン北東部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2005年10月8日からの継続事業）
実施場所	パキスタン・インド
受益対象者の範囲及び人数	対象地域住民
実施内容	<p>2005年10月8日に発生したパキスタン北東部の地震に対して、発生直後の緊急支援として、10月にインドのジャンム・カシミール地方で緊急支援を行ったインドのNGO、SEEDSとパキスタンのバラコットで活動した日本のNGO、JVCを支援した。</p> <p>長期的な復興支援を模索するために、11月と3月に現地調査を行った。震源地付近のムザファラバード、マンセラ、バラコット、バタグラム、バーグなどを精力的に聞き取り調査を中心に訪問した。冬に入る前の生活実態から政府が発表している2006年3月末のテント撤去に伴う再定住の実態などを特定の被災者世帯を絞りながら見てきた。阪神淡路大震災および新潟中越地震でも評価された“つぶやき収集”の手法を導入し、被災地の聞き取りを重ねてきた。この結果、地域のリーダー的な人材との信頼関係なども築くことができ、今後の具体的なプロジェクト実施のための道すじができた。</p> <p>また2006年3月末には、事務局長村井がJICAミッション「パキスタン地震“PPバンド耐震補強工法”普及啓発案件」の一環であるデモンストレーションに参加し、駆け足ながらムザファラバードとバラコットなどを訪問した。</p>
海外派遣	<p>2005年11月25日～12月5日 第1次パキスタン派遣（吉椿・岡本）</p> <p>2006年3月1日～4月6日 第2次パキスタン派遣（吉椿）</p> <p>2006年3月22日～26日 JICAパキスタン派遣（村井・岡本）</p>

事業名	中南米ハリケーン救援プロジェクト
実施日時	随時（2005年10月からの継続事業）
実施場所	メキシコ
受益対象者の範囲及び人数	対象地域住民
実施要領	<p>2005年10月4日に中南米（メキシコ、エルサルバドル、グアテマラ等）で発生したハリケーン・スタンの支援において、募金活動を行った。しかし、募金総額が限られていたため、メキシコ人のクワテモックさんに全額を託してプロジェクトを終了した。尚、託した寄付は被災地にいる被災者の団結を呼びかけるリーフレット作成のために使われた。</p>

事業名	フィリピン・レイテ島地滑り災害救援プロジェクト
実施日時	随時（2006年2月17日からの継続事業）
実施場所	フィリピン 南レイテ州
受益対象者の範囲及び人数	対象地域住民
実施内容	2006年2月17日にフィリピン、南レイテ州で地滑りが発生。フィリピンの支援をしている日本のNGOのJP.Com、フィリピンの政府、大学関係及びマニラに本部を置く障がい者ネットワーク（DPI）などとのネットワークを生かして、直後から情報を収集してきた。

事業名	被災地支援のためのクラフト・ポストカード事業
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	被災地域住民
実施内容	まけないぞう販売数 13個 CODE Tシャツ 1枚

【人材育成事業】

事業名	NGO ことはじめ
実施日時	9月9日、9月22日、10月7日、11月12日、11月19日、12月1日、12月14日の7日間
実施場所	JICA 兵庫
受益対象者の範囲及び人数	<ul style="list-style-type: none"> ●国際協力の仕事シリーズ <ul style="list-style-type: none"> 「UNDP で働いて」(参加者 77 名) 「ピース ウィンズ・ジャパンで働いて」、(参加者 62 名) 「JICA で働いて」(参加者 46 名) ●国際協力と私シリーズ <ul style="list-style-type: none"> 「企業と私」(参加者 26 名) 「高校生と私」(参加者 21 名) 「主婦と私」(参加者 25 名) 「ボランティアと私」(参加者 45 名) のべ参加者 302 名
実施内容	<p>日本国際連合協会兵庫県本部、兵庫県国際交流協会、JICA 兵庫と主催して全 7 回のセミナーを行なった。2 部構成とし、前半は「国際協力の仕事」、後半は「国際協力と私」とした。前半は、将来、国際協力の舞台上で活躍したいと考えている人に、具体的にどのような仕事をしているのかを知ってもらうことを目的とした。</p> <p>後半は、幅広い国際協力を様々な視点から見たテーマとして設定することで、「私」一人ひとりにもできる国際協力があることを知ってもらうことを目的とした。</p> <p>尚、他の主催団体の協力を得て、冊子を 500 部発行し、関係団体に配布した。(テープ起こし代は CODE が負担。)セミナーを運営するに当たって、企画の段階から当日の運営まで、延べ 30 名ほどのボランティアの協力を得て行なった。</p>

事業名	HAT 神戸内 国際機関訪問ツアー
実施日時	8月24日、25日
実施場所	HAT 神戸
受益対象者の範囲及び人数	1 日目 訪問先 (参加者 10 名) アジア防災センター、国連人道問題調整事務所リリーフウェブ神戸、 2 日目 訪問先 (参加者 15 名) 国連地域開発センター、国際協力機構兵庫国際センター
実施内容	HAT 神戸内にある国際機関を訪問し、見学するツアーを開催した。国際協力の現場で働くスタッフと交流することで、もっと国際交流を身近に感じてもらうとともに、国際機関の役割や NGO との連携の可能性について考えることを目的とした。

【災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	災害情報サイト（CODE World Voice）の運営
実施日時	随時（2002年からの継続事業） CODE 翻訳ボランティアによる翻訳作業は年間 22 回 2月20日に松蔭高等学校の「チャレンジ学習」で高校生による翻訳を実施
実施場所	全国（在宅による翻訳） 「チャレンジ学習」は CODE 事務所
受益対象者の範囲及び人数	災害情報を得ている人は不特定多数（これまでのアクセス数は 4921 件） CODE の翻訳ボランティアは約 20 名
実施内容	CODE 発足当初から継続して「World Voice～災害から見る人々の暮らし～」は、約 20 人の翻訳ボランティアの協力により UNOCHA リリーフウェブの翻訳及び発信を行い、海外の災害情報を日本語で発信することができた。 さらに松蔭高等学校のチャレンジ学習の一環で、CODE の事務所に生徒 6 名と英語の先生が来て、翻訳ボランティアに挑戦してもらった。その中の生徒で引き続きボランティアをしたいと希望している人がいるなど、高校生や大学生を中心とした翻訳ボランティアの人材育成にも貢献することができた。

【国内外のネットワーク構築事業】

事業名	関係機関の開催するセミナー、シンポジウムへ出席
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	——
実施内容	国内外のネットワークを構築するために、関係機関の開催するセミナーやシンポジウム、イベントなどへ参加、出席した。 詳細は下記の表の通り。

開催日時	セミナー及びシンポジウム名	主催団体
5月12日	国際防災復興協力機構(IRP)記念シンポジウム	国際防災復興協力機構(IRP)
6月19日	ゆめ風基金設立十周年記念イベント 「ゆめ風で会いましょう」	ゆめ風基金
8月1日 ～4日	ADRRN ワークショップ (インド)	ADRRN(アジア防災・災害救援ネットワーク)
8月22日 ～29日	防災教育普及のワークショップ (ニアス島)	セーブ・ザ・チルドレン・アライアンス
9月17日	「被爆・終戦60年イベント」	コープこうべ
9月22日 ～26日	津波アジア NGO 国際会議 (タイ)	タイの NGO ネットワーク
10月1日	シンポジウム「災害復興を通じて考えるマイノリティの連帯」	IMADR-JC
11月4日	「これからの国際協力支援活動を考えるつどい」	兵庫県生協連・日本生協連
11月13日	フェスタ in 湊川	
11月19日	全日本仏教婦人連盟大会	全日本仏教婦人連盟
11月24日	防災分野課題別支援委員会 JICA テレビ会議	スリランカ JICA・東京 JICA・神戸
12月2日	パキスタン報告会 in 大阪	ジャパンプラットフォーム
12月7日	「アンデス災害医療マネジメント研修」講演	
	「ひょうご安全の日」推進会議総会	
1月7日 ～12日	スリランカ子ども防災大使	毎日新聞
1月18日	防災シンポジウム 2006	UNCRD 等共催
1月19日	第2回国際防災復興協力シンポジウム	
1月20日	世界災害語り継ぎネットワーク設立記念フォーラム	
2月2日	「震災対策技術展 自然災害対策技術展」講演	神戸国際観光コンベンション協会等
2月22日	「インダストリアルツアー」講演	貿易研修センター

事業名	留学生セミナー
実施日時	3月13日～18日
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び人数	留学生6名
実施内容	2004年度に引き続き、JICA兵庫からの委託により留学生セミナーを実施した。既に来日している留学生を対象に「阪神・淡路大震災」と「その後の復興に係る市民活動」をテーマに、講義とフィールドワークを交えた研修を6日間行なった。

事業名	「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーンへの参加
実施日時	9月から継続事業
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	ホワイトバンド販売数 2046本（入荷本数 2300本） イベント参加人数 約 250人
実施内容	<p>「ほっとけない世界のまずしさ」ホワイトバンドキャンペーンは、貧困と闘うグローバルなキャンペーンの一翼で、日本各地で貧困の問題に取り組む市民によるアドボカシー活動のことである。CODEは9月から本キャンペーンの賛同団体になり、本キャンペーンのシンボルであるホワイトバンドの販売や関連のイベントを共催した。</p> <p>ホワイトバンドは2300本入荷し、昨年2046本を販売した。1本300円のうち、100円がキャンペーン事務局からの買い取り価格で、100円をアフガニスタンのぶどう基金に使い、100円を国内事業費（10月末まではアメリカのハリケーン・カトリーナ支援）に使った。</p> <p>関連の企画は、「9.11セプテンバーコンサート」、「エイズとの闘い及びホワイトバンド運動」、兵庫県立香住高等学校での総合学習の時間などで、イベントを共催したり、講演をしたりした。</p>

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	協同組合の勉強会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び人数	理事関係者
実施内容	継続して勉強会を計画したが、開催できなかった。

事業名	予防防災の取り組み
実施日時	3回（11月26日、12月10日、17日）
実施場所	人と防災未来センター
受益対象者の範囲及び人数	「マルチハザード時代における予防防災の重要性」（参加者 25 名） 「予防防災の課題と安全・安心まちづくり」（参加者 28 名） 「予防防災における公衆衛生としての共生と連携」（参加者 28 名） 延べ参加者 81 名
実施内容	災害が起こる前の「その時」に最悪の事態を回避すること、救える命があることをこれまでの経験から学んだ。今後災害救援を行う者として「予防防災」を考えなければならないことは当然の責務である。しかし、「予防防災」についての実践はもちろんのこと知識についても関係者にとってはまだ不十分である。 発足当初から重要課題として掲げているこの問題に対して、第一人者である独立行政法人消防研究所所長（当時）である室崎益輝氏の講演会を開催した。

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	賛助会員数の増加
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	不特定多数
実施内容	<p>賛助会員 個人・NGO・NPO 114名・173口（一口2,000円） 団体 5団体・7口（一口10,000円）</p> <p>前年度 個人・NGO・NPO 70名/団体・91口 団体 2団体・14口</p>

事業名	ボランティアの日
実施日時	4月24日、5月22日、6月16日、7月24日、9月18日、10月16日、11月23日、1月22日、2月26日、3月26日の10日間
実施場所	CODE事務所
受益対象者の範囲及び人数	ボランティアに関心のある人 約80名 （ボランティア登録者数は約50名）
実施内容	<p>CODE ボランティアの定着化をはかるために、月1回、休日にボランティアの日を設定した。ボランティアの内容は、CODE Letter、ぶどう新聞の発送作業、チラシ作り作業等である。</p> <p>月1回のボランティアの日だけでなく、翻訳の作業やセミナー、シンポジウム、スタディツアーの開催などにボランティア募集を行い、多くの方が参加した。</p>

事業名	講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	不特定多数
実施内容	講師の依頼を受けスタッフを派遣した。 詳細は下記の表の通り。

開催日時	講義名	主催団体	講演者
6月18日	講演	大阪桃山学院大学	斉藤
6月29日	講演「復興支援と女性のエンパワメント」	堺女性センター	村井
7月4日	講演会	朝来市立生野中学校講演会	斉藤
7月6日	「国際NGO論」講義	龍谷大学	斉藤
7月9日	立命館大学ボランティアフェスタ講演	立命館大学	斉藤
10月3日	シルバーアドバイザー養成講座講演	大阪府老人総合センター?	村井
10月11日	講演	舞子高等学校環境防災科	村井
1月24日	「キャリアデザイン研修」講演	神戸大学アイセック	飯塚
2月1日 9日	講演	楠高等学校	岸本
2月10日	講演	香住高等学校	飯塚
2月20日	「チャレンジ学習」講演	松蔭高等学校	飯塚

事業名	機関誌とインターネット																				
実施日時	機関誌は隔月発行 インターネット（ホームページ、メーリングリスト）は随時																				
実施場所	CODE 事務所																				
受益対象者の範囲及び人数	機関誌は全国各地、約 700 名/団体 メーリングリスト、約 250 名 ホームページは不特定多数																				
実施内容	<p>各救援プロジェクトやセミナーなどの情報を中心に機関紙やインターネット（メーリングリスト、ホームページ）を通して、発信を行なった。CODE の機関誌である「CODE レター」は7回を発行。プロジェクトニュース4回の発行。ぶどう新聞3回の発行。メーリングリストを通しての発信は199回。ホームページのトップページへのアクセス数は20523件、一日平均56.2件（前年度は15000件、一日平均41.0件）。各救援プロジェクトページへのアクセスは以下の通り。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ページビュー(一日平均)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イラン南東部地震</td> <td>17,204(47.1)</td> </tr> <tr> <td>アフガニスタン</td> <td>11,165(30.6)</td> </tr> <tr> <td>スマトラ沖地震・津波</td> <td>62,038(170.0)</td> </tr> <tr> <td>イラン・ザランド</td> <td>5,303(14.5)</td> </tr> <tr> <td>フィリピン・レイテ島地滑り</td> <td>2,024(5.5)</td> </tr> <tr> <td>ハリケーン・カトリーナ</td> <td>7,379(20.2)</td> </tr> <tr> <td>パキスタン地震</td> <td>7,197(20.2)</td> </tr> <tr> <td>中南米ハリケーン</td> <td>2,023(5.5)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>114,333(313.2)</td> </tr> </tbody> </table>		ページビュー(一日平均)	イラン南東部地震	17,204(47.1)	アフガニスタン	11,165(30.6)	スマトラ沖地震・津波	62,038(170.0)	イラン・ザランド	5,303(14.5)	フィリピン・レイテ島地滑り	2,024(5.5)	ハリケーン・カトリーナ	7,379(20.2)	パキスタン地震	7,197(20.2)	中南米ハリケーン	2,023(5.5)	合計	114,333(313.2)
	ページビュー(一日平均)																				
イラン南東部地震	17,204(47.1)																				
アフガニスタン	11,165(30.6)																				
スマトラ沖地震・津波	62,038(170.0)																				
イラン・ザランド	5,303(14.5)																				
フィリピン・レイテ島地滑り	2,024(5.5)																				
ハリケーン・カトリーナ	7,379(20.2)																				
パキスタン地震	7,197(20.2)																				
中南米ハリケーン	2,023(5.5)																				
合計	114,333(313.2)																				

事業名	救援プロジェクト報告会
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	不特定多数
実施内容	CODE が行なっている救援プロジェクトについて、各地の支援者と報告会を企画、実施した。 詳細は下記の表の通り。

開催日時	講義名	主催団体	講演者
4月10日	スマトラ沖地震津波報告会	神大 COE	斉藤
4月13日	スマトラ沖地震津波報告会	宝塚 Y's メンズクラブ	斉藤
4月27日	スマトラ沖地震津波報告会	六甲アイランド高等学校	飯塚
5月16日	スマトラ沖地震津波報告会	天理	斉藤
5月21日	スマトラ沖地震津波報告会	神戸 YMCA・CODE	村井・飯塚
	スマトラ沖地震津波報告会	関西学院大学災害復興研究委員会	村井
5月22日	イランワークキャンプ報告会	ブレーンヒューマニティ	斉藤
5月30日	スマトラ沖地震津波調査報告会	人と防災未来センター	村井
	アフガン・スリランカ報告	岸和田小さな友の会	村井
11月11日	スマトラ・パキスタン報告	わーすカフェ	飯塚
11月15日	アフガニスタン報告	きらり連合	村井
11月30日	パキスタン報告	堺女性大学	飯塚
12月6日	JAL 社内向けパキスタン報告	JAL	吉椿・岡本
12月13日	パキスタン報告 ラジオ出演	ラジオ関西	吉椿・岡本
12月14日	パキスタン報告	神戸女学院大学	吉椿・岡本
	パキスタン報告	兵庫高校ボランティアサークル	吉椿・岡本
12月15日	パキスタン報告会	YMCA	吉椿・岡本
12月25日	スリランカ報告 ラジオ出演	FM COCORO	飯塚
1月6日	スリランカ報告 ラジオ出演	FM わいわい	飯塚
1月17日	1.17 震災メモリアル 海外の災害地報告	舞子高等学校	飯塚
3月15日	パキスタン報告会	コープこうべ	村井

事業名	冊子等の発行
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び人数	不特定多数
実施内容	「災害救援 支えあいは国境を越えて」(神戸新聞総合出版センター発行)を引き続き販売した。売上げ数9冊。 人材育成事業である NGO ことはじめで行なわれた「国際協力セミナー」の講演録を、他の主催団体の協力を得て500部発行し、関係団体に配布した。

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	スタッフのスキルアップ
実施日時	随時
実施場所	インド、インドネシア、国内
受益対象者の範囲及び人数	事務局スタッフ
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ADRRN ワークショップ（インド） ・ 外務省主催 「住民参加型災害復興支援に関する能力強化研修」（国内研修・海外研修インドネシア・マルク州） ・ JICA 「草の根技術協力のための PCM 研修」

事業名	2006. 1. 17 シンポジウム 「世界の一年を振り返って次の一年へ」 ～スマトラ沖“TSUNAMI”から一年、阪神・淡路大震災の経験は活かされているのか？～
実施日時	1月8日
実施場所	JICA 兵庫
受益対象者の範囲及び人数	参加者約 90 名
実施内容	<p>わたしたちは、昨年、阪神・淡路大震災の 10 年を振り返り、新たな思いで「ひょうご安全の日」を宣言し、国連の機関と連携して「国際防災復興協力機構（IRP）」を設立し、被災地からの発信の 1 歩を踏みだした。10 年前に市民と NGO は、「新しい社会システムを創造する力を養おう」と宣言した。10 年を期して、わたしたちは、過ぎる世界の 1 年を振り返り次の 1 年への決意を新たにするため 1. 17 シンポジウムを開催したい。</p> <p>死者・行方不明者 23 万人、被災地 13 カ国に及ぶ未曾有の大災害となった「2004. 12. 26TSUNAMI」から 1 年が過ぎようとしている。インドネシアでは従来からの内戦の影響、移住労働者や少数民族などのマイノリティ被災者への援助の遅れなどもあり復興格差が顕著になりつつある。被災地は新たな局面を迎えている。</p> <p>TSUNAMI 被災地はこれから本格的な復興に向かう。阪神・淡路大震災はじめ国内外における私たちの援助の経験や復興の智慧をさらに継承し、効果的に生かすために、各々のトップリーダーによるこの 1 年あるいはこれまでの経験を振り返り、検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 記念講演「災害と人権」 講師：芹田健太郎 ● シンポジウム「世界の一年を振り返って次の一年へ」 パネリスト：井戸敏三 浅野寿夫 大西健丞 コーディネーター：芹田健太郎

<参考資料>

●新聞、機関紙、雑誌など掲載一覧

掲載日	記事の内容	掲載された新聞等
4月11日	ぶどう基金、スマトラ沖支援についての記事	わっはっは（生活協同組合連合会きらり 発行）
4月13日	「ぶどう基金」3年目の春	読売新聞
5月17日	CODEの紹介の記事	防災情報新聞（防災情報機構NPO法人 発行）
5月22日	スリランカ復興支援の活動報告会の記事	読売新聞
	市民団体が中長期的な支援のあり方について議論の記事	朝日新聞
5月26日	ボランティア募集の記事	神戸新聞
6月7日	地震防災の歌 被災地に響く	中日新聞
6月12日	スマトラ沖地震現地レポート	毎日新聞
6月21日	世界の各地で起こっている災害や紛争に目を向けて	きょうどう（コープこうべ）
6月24日	「稲むらの火」スリランカへ	毎日新聞
6月28日	「稲むらの火」寸劇を指導	朝日新聞
7月1日	ぶどう基金の紹介の記事	ユーラシアンクラブ ニュースレター
7月5日	「稲むらの火」大津波被災地に	日本経済新聞
7月9日	豊かなアフガン ぶどうに託して	朝日新聞
7月13日	津波避難に「稲むらの火」 NGOがタイ語に	読売新聞
7月20日	美浜・布土小 近藤教諭、モルディブへの記事	中日新聞
7月23日	海越え防災ソング	毎日新聞
7月30日	ひと人抄 飯塚さん の記事	読売新聞
	インド洋津波 被災地支援 日本のNGO呼びかけ	読売新聞
8月19日	国際機関に行ってみよう。お知らせの記事	朝日新聞
8月21日	国際機関を見学しよう。お知らせの記事	神戸新聞
9月号	モルディブ 被災地コミュニティでの防災教育の記事	JICA FRONTIER
9月2日	津波被災地支援4日活動報告	朝日新聞
9月5日	姫路出身・飯塚さん、スリランカの活動報告の記事	読売新聞（播磨）
9月6日	「ほっとけない世界の貧しさ」キャンペーン賛同団体の記事（広告）	朝日新聞
9月11日	カトリーナの募金活動開始の記事	神戸新聞
9月20日	「カトリーナ」被災者をホワイトバンドで支援	朝日新聞
10月6日	ぼうさい甲子園 布土小学校の歌海外への記事	毎日新聞
10月14日	パキスタン地震へコープこうべが100万円	神戸新聞
10月16日	パキスタン地震支援の募金活動	朝日新聞
10月26日	黄河の森緑化ネットワーク、フォーラムの記事	毎日新聞
10月27日	元靴職人、世界の被災地に	朝日新聞
10月28日	「アフガンの現場から平和を考える」九条の会の告知記事	朝日新聞
	寺子屋セミナー、お知らせの記事	毎日新聞
11月5日	日本生協連が「つどい」開催	神戸新聞
	神戸でつどい スマトラ沖地震から被災国支援の記事	毎日新聞
11月7日	パキスタン地震から一ヶ月、NGO支援の記事	読売新聞
11月8日	パキスタン地震から一ヶ月、学生にできることの記事	中日新聞

	パキスタン地震から一ヶ月、学生の支援の記事	学生之新聞（中日新聞社）
11月11日	国際協力セミナー開催のお知らせの記事	神戸新聞
11月16日	高校生にもできる国際協力 19日セミナー	毎日新聞
11月18日	津波被災地 防災教育で自立の芽	経済新聞
11月25日	予防防災 開催のお知らせの記事	神戸新聞
12月16日	ボランティアと国際協力 セミナー最終回	毎日新聞
	スリランカ幼稚園再建 雲仙普賢岳被災者が募金	毎日新聞
12月17日	パキスタン被災地訪問の3人が報告	毎日新聞
12月27日	パキスタン大地震被災地派遣報告会の記事	長岡新聞
12月11日	次世代に復興のバトンが渡る ～災害多発の世界へ兵庫から発信を	神戸新聞
12月20日	日本から世界へ！ボランティア団体インフォメーション	F R a U
1月3日	コープこうべ災害緊急支援基金	きょうどう（コープこうべ）
1月7日	世界の1年を振り返って次の1年へ、開催のお知らせの記事	朝日新聞
	スマトラ沖地震1年を振り返る あすシンポ	神戸新聞
1月17日	CODEの紹介の記事	防災情報新聞
	震災11年の記事	読売新聞
	スマトラ沖 幼稚園再建についての記事	朝日新聞
1月9日	震災経験世界の一助に 中央区でシンポ	産経新聞（神戸）
	国際防災協力を理解深める 神戸 シンポジウムに90人	神戸新聞
1月18日	防災教育 スリランカへ	毎日新聞
1月19日	防災シンポジウム2006の記事	神戸新聞
2月4日	CODEの紹介の記事	神戸ゆめネット第18号
2月16日	国際貢献目指す若者	産経新聞
2月18日	地滑り被害への緊急支援募金開始の記事	朝日新聞
2月19日	地滑りの支援募金開始の記事	毎日新聞
	救援募金受け付けの記事	神戸新聞
2月22日	募金活動開始の記事	読売新聞
3月1日	幼児教育復興に神戸の心	日本経済新聞
3月23日	「幸せ運ぼう」ビジュアル版についての記事	読売新聞

●テレビ、ラジオ出演一覧

出演日	内容	メディア
8月	スリランカ報告	FMCOCORO
10月2日	イラン（しあわせ運べるように）	NHK
10月14日	パキスタン支援（募金開始）	Sun-TV（ニュース）
12月25日	スリランカ・パキスタン報告	FMCOCORO
12月29日	第5回 国際協力セミナー「高校生と国際協力」	Sun-TV（ニュース）
1月6日	スリランカ報告	FM わいわい
1月29日	震災11年	Sun-TV（スペース2006）
2月21日	フィリピン支援（募金開始）	Sun-TV
2月22日	フィリピン支援（募金開始）	NHK
3月22日	CODEの活動紹介	CS放送「読売ザ・Kansai」